

岐臨技会報

2025年7月20日 発行



<Gifu>Association of Medical Technologists

令和7年度 定時総会 令和7年6月29日 OKBふれあい会館

令和7年6月29日（日）にOKBふれあい会館において、令和7年度岐阜県臨床検査技師会の定時総会が行われました。出席会員数 30名、事前書面評決数799名、合計829名となり会

員数（令和7年6月29日現在の正会員数は1009名）の過半数を超えていることにより総会は成立しました。定時総会に先立ち岐阜県臨床検査技師会の「功労者表彰および永年職務精励者表彰」として、岡村会長より授章者への表彰が行われました。定時総会は山口副会長による開会の辞、岡村会長の挨拶に引き続き、荻谷渉外部長の司会進行のもと、岐阜県総合医療センターの建部先生と山内ホスピタルの中島先生の両議長による議事進行により、第1号議案の令和6年度事業報告、第2号議案の令和6年度決算報告、第3号議案の令和6年度監査報告ならびに第4号議案のパートタイム職員就業規則新設についての報告があり、全て質疑や意見はなく原案通り可決いたしました。また、第5号議案の拡大研修会・岐阜県医学検査学会講師料規定変更報告と、第6号議案の岐臨技会員講師実務委員料金規定変更報告について森本学術部長より報告（理事会承認案件）がありましたが、これらにも質疑や意見はありませんでした。最後に酒井副会長による閉会の辞により、定時総会の閉会が宣言されました。

会員皆様のご協力により、定時総会は無事終了することができましたことを感謝申し上げます。また、上記のごとく今回の総会議案は全て可決されましたことを併せてご報告致します。会員の皆様には今後とも技師会活動へのご参加、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



新人サポート研修会 令和7年6月8日(日) 岐阜医療科学大学



研修会を終えて

JA岐阜厚生連 飛騨医療センター 久美愛厚生病院
中切 健太

今年度も昨年度と同様に現地にて開催をすることができ、新人～若手のたくさんの技師の方々、学生の皆さんに参加をいただき大変喜ばしく感じています。

今年度のプログラムとして、例年、検査総合、生化学、血液、一般、生理、微生物、輸血、病理の8部門で行っていましたが、今年度は、染色体・遺伝子部門も講義をしていただき9部門に講義をしていただきました。積水メディカル様によるランチョンセミナーとフリートーク&質疑応答にて開催いたしました。

部門の講義においては、各部門の講師の先生方から各部門の知っておくべき基礎的な内容についての講義となりました。今年度より追加された、遺伝子・染色体部門においては、血液や病理、微生物など様々な部門において遺伝子検査が行われており、遺伝子・染色体についての基礎的な内容を学ぶことは、私自身も大変参考になりました。

2回目の開催となったフリートークについては、参加者の方が積極的に質問をしている姿が見られて企画をしてよかったと感じました。気軽に質問をすることや、学術部門員との交流が持てる機会となるので今後も続けていきたいと考えています。

今回の研修会は、1日で行っており長時間の研修会となりましたが、参加者の方々が集中して講義を聞いており、各分野の基礎的な知識を十分学べたのではないかと感じております。講義やフリートークで学んだことを今後の業務に生かしていただけると幸いです。

最後になりましたが、わかりやすい講義をしていただいた講師の方々、ランチョンセミナーをしていただいた積水メディカル様、準備から運営まで協力いただいた各部門長及び部門員の皆様、会場を貸してくださり、設備面でのサポートをしていただいた岐阜医療科学大学様に感謝申し上げます。



実務委員として

大垣市民病院
大村 将希

昨年度より、実務委員を務めさせていただき今回実務委員としての参加は今回で2回目となりました。このたびのアンケート結果を拝見し、参加者の皆様から多くの貴重なご意見・ご感想を頂けたことに感謝申し上げます。



概ね好意的な評価をいただいた点については、準備・運営に携わった実務委員の一員として嬉しく感じております。一方、昨年度より行っているフリートークにつきましてはご好評の言葉と共に、課題点の指摘もありました。来年度の改善案として参考にさせていただきます。

岐阜県臨床検査技師会では今後も様々な研修会を行っていく予定です。研修会は、日々の業務に新たな視点や気づきをもたらしてくれる貴重な機会です。私も研修会を通して多くの学びや他の病院との関わりをもつことができました。今後もさまざまな内容が予定されていますので、ぜひご参加いただき、ご自身の成長に役立てていただければと思います。



新人サポート研修に参加して



土岐市立総合病院 井戸 理紗子

今回の新人サポート研修を通して、臨床検査技師として業務を行う上で必要な知識だけではなく、正確な検査結果を出すために必要なことや、注意点、また異常値が出た場合の対処法や解釈など、多くのことを学ぶことができました。

特に、数値として結果が出る項目については、検査結果をそのまま報告するのではなく、検体の気泡や色などを観察し、検体が適切であるのか、また前回値との比較、患者さんの疾患や体の状態などを考慮し、その値が適切なものであるのか、あらゆる方面から考えていくことも必要であると感じました。また、適切な検体処理だけではなく、臨床とのコミュニケーションも重要であることがわかりました。

今回の研修では、各部門で活躍されている先輩技師の方々から、実体験に基づいたアドバイスもお聞きすることができ、非常に参考になりました。今回の研修で得た学びを大切に、今後の業務に活かしていきたいです。

大垣市民病院 森本 帆風

今回の研修会で、基礎的な知識を復習したり、より理解を深めたりすることができました。また、各部門の検査内容や課題、今後の発展など、自分が所属する部署以外の話も聞くことが出来てとても興味深かったです。

今回の研修会では部門ごとの質問の時間も設けられていたため、自分が日夜勤の練習の際に疑問に思っていたことや、不安に思っていたことを直接講師の先生方に質問することができ、自身の疑問や不安を解消することができました。検査について学ぶだけでなく、同じ岐阜県内で臨床検査技師として働く新人の仲間が多くいるということを実感できる、とても有意義な研修会でした。今回の研修会で学んだことを今後の業務に生かしていきたいです。



◎第2回輸血細胞治療部門研修会

開催日：令和7年7月30日（水）18:00～19:00

開催方式：WEB開催（Zoomミーティング）

申込期限：7月28日

参加費：無料

◎第3回輸血細胞治療部門研修会

開催日：令和7年8月2日（土）9:00～13:00

開催方式：現地開催（松波総合病院）

参加条件：岐臨技会員で、2025年 2次試験受験者

参加費：4,000円

◎第2回病理細胞部門研修会（細胞検査士一次試験対策）

開催日：令和7年8月3日（日）

開催方式：WEB開催（Zoomウェビナー）

申込期限：7月31日

参加費：無料

◎病理細胞部門研修会

（第9回中部圏認定病理検査技師企画・病理技術研修会）

開催日：令和7年8月30日（土）13:00～17:00

開催方式：現地開催（修文大学医療科学部）

申込期限：8月8日

参加費：会員4,000円

◎令和7年度日臨技中部圏支部研修会

第31回臨床微生物部門研修会

開催日：令和7年10月12日～13日 14:00～翌12:00

開催方式：現地開催（石川県立 中央病院）

申込期限：9月10日

参加費：会員7,000円

◎令和7年度日臨技中部圏支部研修会

病理細胞検査研修会

開催日：令和7年11月22日～23日 13:00～翌12:30

開催方式：現地開催

（富山赤十字病院 旧看護専門学校3F）

申込期限：10月24日

参加費：会員8,000円

◎令和7年度日臨技中部圏支部研修会

臨床血液部門研修会

開催日：令和7年12月6日～7日 13:00～翌12:00

開催方式：現地開催（石川県立 中央病院3F）

申込期限：11月10日

参加費：会員9,000円



第1回岐臨技輸血研修会報告書 異常反応に遭遇した際の検査担当者の対応 血液型編 令和7年6月21日(生) 8 岐阜医療科学大学にて

松波総合病院 輸血部

山下 瑠泉

今回の研修会では各検体の血液検査を試験管法で行い、ワークシートに添って答えていくものであった。その検査にて異常反応がみられた場合の担当技師としてどう対応するかが質問され、輸血に関する知識、技術が問われた。

試験管法での血液型検査では、オモテ・ウラの不一致やコントロールが陽性になるような異常反応がみられ見逃さず異常な反応であると認識できた。部分凝集がみられた検体ではフリーセルが少なく異常反応であると確が持てず、再検査を行ったため検査に時間を要した。実務で血液型検査を行う場合、初めに機械で検査を行い、異常反応がみられた場合、試験管法で再検査を行うため停電などで機械での検査が行えない場合、試験管法で検査が行われるため、初見での異常反応を見逃す可能性があることが再確認でき、技術の向上の必要性を感じた。

ワークシートにて現段階での検査結果で輸血をする場合の選択すべき製剤が問われたが、Rh コントロール陽性の時の製剤選択が皆目見当もつかなかった。また、各異常反応に対して追加する検査が明確に回答することができず、自身の知識不足を痛感した。

「輸血のための検査マニュアル Ver1.4」では異常反応での検査の進め方や、異常反応に対する考え方が記載されており、ワークシートを回答する際、とても参考になったため、今後実務でも活用していきたい。

ワークシートでは調査することや、臨床に伝えるべきことを問う欄があり、23歳女性の検体の場合、RhD 陰性の可能性があったため、妊娠、出産があるかを調査し、そうであった場合、子供へのリスクと対処法について伝える必要があった。RhD 陰性の方の出産のリスクについて知識はあったが、それを問われた際、必要事項、対処まで思い至らず、知識をもつだけでなくそれを活用することが大切であると思った。

今回の研修では自身の未熟さを感じたため、日々、知識や技術を磨いていき安全な輸血療法を提供できるよう精進していきたい。

可児とうのう病院・検査部

清川 和真



普段、輸血業務に従事しており、日頃は試験管法で血液型検査を行っています。今回の研修では自らの手技を見直し、日常業務に活かせられると考えて受講しました。

試験管法による血液型検査の動画解説は非常にわかりやすく、基本手技を視覚的に学ぶことができました。また、認定輸血検査技師の先生方から直接受けた手技の解説はとてもわかりやすく、自分の未熟さを痛感するとともに理解が深まりました。

6検体を用いた実技では、基本的な操作だけでなく、異常を示す検体やその対応方法についても学ぶことができ、非常に実践的でした。特にミックスフィールドの判定に苦戦しましたが、認定輸血検査技師の先生方からアドバイスを頂いたり、判定のコツを教えていただいたことは、大きな学びになりました。

他施設の方々との交流も良い刺激となりました。研修会で得た知識を今後の業務に積極的に活かしたいと感じました。今後もこのような研修には積極的に参加したいです。

発行所(一社)岐阜県臨床検査技師会

〒500-8383 岐阜市江添2丁目5-15 ソシエ2001-305号室

TEL 058-275-5596 FAX 058-213-0220

発行責任者 岡村 明彦

編集者 市川 浩良 種村 久子

E-mail giringi-office@giringi.jp